

前頭葉神経膠腫摘出後に幻覚妄想状態を呈した1例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松井, 聡子, 河野, 敬明, 松井, 健太郎, 稲田, 健, 高橋, 一志, 西村, 勝治 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032051

STN-DBS と GPi-DBS の効果を併せ持つことが示唆された。

3. Embolic stroke of undetermined source (ESUS) における血管内皮機能について

(東京女子医科大学神経内科) 白井優香・遠井素乃・久保田愛・安達有多子・北川一夫

ESUS を含めた脳梗塞病型ごとの血管内皮機能を明らかにすることを目的とした。〔対象と方法〕対象は40歳以上で過去1年以内に頭部MRIを行い、脳血管病変を有する当科外来通院患者を対象とした前向き登録研究より選出した。対象群を、非脳卒中 (No stroke)、アテローム血栓性脳梗塞 (LAA)、ラクナ梗塞 (SVO)、心原性脳塞栓症 (CE)、塞栓源不明の塞栓性脳梗塞 (ESUS)、その他 (Other stroke) に分け、上腕動脈の flow mediated dilation (FMD) 検査を用いて各病型における血管内皮機能を評価した。統計は、ANOVA 検定を用いた。〔結果〕対象は166人、年齢 69.0 ± 10.6 歳、男性61.5%であった。既往症は、高血圧69.3%、糖尿病27.1%、脂質異常症52.4%、慢性腎臓病48.0%、心房細動10.2%であった。% FMD は全体で 5.69 ± 2.70 であり、No stroke ($n=70$), 5.78 ± 0.32 ; LAA ($n=15$), 5.03 ± 0.70 ; SVO ($n=34$), 5.90 ± 0.46 ; CE ($n=12$), 5.08 ± 0.78 ; ESUS ($n=15$), 3.39 ± 0.70 ; Other stroke ($n=20$), 6.87 ± 0.60 であった。ESUS は No stroke, SVO, Other stroke と比較し % FMD

が有意に低下し、LAA, CE とは有意差はなかった。また、LAA は Other stroke と比較し % FMD は有意に低かった。ESUS の血管内皮機能は LAA と同様に低下していることが示唆された。

4. 前頭葉神経膠腫摘出後に幻覚妄想状態を呈した1例

(東京女子医科大学神経精神科) 松井聡子・河野敬明・松井健太郎・稲田 健・高橋一志・西村勝治

症例は50歳の女性。精神疾患の既往歴はない。X年Y-2月、左前頭葉神経膠腫と診断され、Y月Z-12日、覚醒下腫瘍摘出術を施行された。術翌日、せん妄と診断されリスペリドンでの薬物治療が開始された。せん妄は速やかに消退し、Y月Z-9日、リスペリドンを中止したところ、Y月Z-4日に幻聴、被害妄想が出現したため、Y月Z日、加療目的に当科転科となった。リスペリドンを4mgまで増量したところ幻聴、被害妄想は消失した。しかし、錐体外路症状が顕在化したため、入院第24病日よりリスペリドンを漸減した。入院第49病日にリスペリドン中止したところ、錐体外路症状は消失し、またその後も幻覚妄想状態は再燃しなかった。入院第74病日に当科退院、その後も少なくとも1か月は幻覚妄想状態の再燃を認めていない。本症例は、前頭葉神経膠腫摘出術後に精神症状が出現した初めての報告である。